

平成29年度第72回北海道教育研究所連盟研究発表大会(日高大会) 兼第59回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会

平成29年8月31日、9月1日に浦河町総合文化会館を会場に、平成29年度第72回北海道教育研究所連盟研究発表大会（日高大会）兼第59回全国教育研究所連盟北海道地区研究発表大会を開催し、全道各教育研究所・研修センターから75名の所員・研究員等が参加しました。

■ 第16次共同研究（1年次）の研究内容の説明

〔本年度の研究内容〕

具体的な研究内容として、次のような活動を進めました。

【共同研究推進委員会】

学校の実態に応じた研修コンテンツの作成として、ミニ道研の資料等を基に校内研修で活用できるよう、進行表・プレゼンテーション・演習の流れを1つのセットにした、「学級経営」のミニ研修コンテンツを作成しました。

【夏季所員研修会】

- 北海道の広域性に対応した教員研修の充実を図るため、所員によるビデオ通話ソフトウェアの活用方法を研修しました。また、ビデオ通話ソフトウェアの説明や操作体験を通して、ビデオ通話ソフトウェアの活用に係る協議を行いました。
- 「考え、議論する」道徳科への転換に向けた授業改善を実現する所員の力量の向上をねらいとして、道徳科の学習指導案を作成後、模擬授業を行い、改善策を検討し、交流しました。



＜全 体 発 表＞

共同研究推進委員長 平 本 哲 也
副委員長 益 子 忠 行

■ ビデオ通話ソフトウェアの体験



（参加者の声）

- ビデオ通話ソフトウェアの活用方法は理解できた。今後はどのような設備・環境があれば活用できるのか、各地区、各校へ発信できればよいと感じた。
- 日々進歩するICT機器を活用して、様々な学習、研修ができることが分かった。
- 地域で進めている小中一貫教育の中で活用するヒントをいくつかいただいた。
- 話すスピードだけではなく、声質によっても伝わり方が大きく異なることが分かった。

ビデオ通話ソフトウェアによる接続

道 研

日高会場

遠隔研修の疑似体験

「遠隔地へ研修を配信する教育研究所・センター役」として模擬研修を配信

「遠隔地にある学校役」として模擬研修を受講

■ 記念講演

演 題 「北海道の現状を踏まえた教員研修の在り方」

講 師 国立教育政策研究所初等中等教育研究部

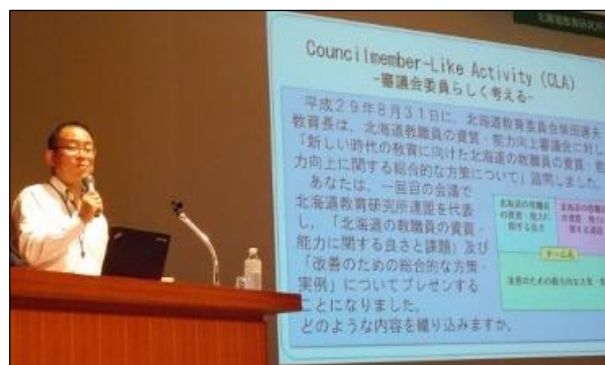
副部長・総括研究官 藤 原 文 雄 氏

〔概要〕

- ・現在の教育政策上の主な課題は、学校教育においては、教育水準の維持・向上のため、新学習指導要領の円滑な実施に向けて取り組むことである。

また、地域・社会においては、貧困家庭で困っている子どもを支援し、貧困の連鎖を止めることである。

- ・教育実践のやりがいは、教育専門家として、目の前の一人一人の子どもの幸せのために、カリキュラムを考え、地域との連携などの仕組みをつくり、実践することによって生まれる。
- ・国の政策の中心は、「次世代の学校・地域」創生プランにある4つの政策（学校の組織運営改革、教員改革、地域からの学校改革・地域創生、地域学校協働本部）と学校間連携であることを理解する必要がある。
- ・教育研究所・研修センターの所員の役割は、教育行政の世界と学校現場をつなぎ、教育行政を分かりやすく学校現場に伝える「翻訳者」「仲介者」、そして「大人を育てるプロ」になることである。
- ・北海道の教員の良さは、教育に対して熱心ということである。また、特徴として、地域と密着した取組を有効に活用していることが挙げられる。
- ・所員の方々は、日々の教育実践の他に北海道の動向や管内の状況を踏まえながら取組を行っており、教育研究所・研修センターが教員を幸せにできる機関であり続けていきたい。



国立教育政策研究所初等中等教育研究部
副部長・総括研究官 藤 原 文 雄 氏

講演の中で、演習を行いました。

【演習題】

平成29年8月31日に、北海道教育委員会柴田達夫教育長は、北海道教職員の資質・能力向上審議会に対し、「新しい時代の教育に向けた北海道の教職員の資質・能力の向上に関する総合的な方策について」諮問した。あなたは、一回目の会議で北海道教育研究所連盟を代表し、「北海道の教職員の資質・能力に関する良さと課題」及び「改善のための総合的な方策・実例」についてプレゼンすることになった。どのような内容を織り込むか。



第1部会

【研究発表1】

テーマA「言語活動の充実を意識した、思考力・判断力・表現力の育成を図る研究」

網走地方教育研修センター 篠原 昌幸 主任研究員、村上 陽一 研究員

「思考・判断・表現を繰り返し、学びを深める子どもの育成～各教科・各領域における言語活動を意識した授業づくり～」

- ・「主体的に学びに向かう子ども」「他者と関わりながら自分の考えを広げたり、深めたりする子ども」を目指す子ども像とした。
- ・「言語意識（目的・相手・場面・方法・評価）を高めるための単元構成の工夫」「子どもの主体性を高めるための手立ての具体化」「他者との関わりを深めるための手立ての具体化」の研究を行っている。

（参加者の声）

- ・2つの授業の比較、ポイントを絞った研究協議等が参考になった。
- ・同じ学習内容を2つの違う視点で実践し、映像を通して検証するのは有効な手立てだと思った。



【研究発表2】

テーマB「主体的・対話的で深い学びを目指した、協同的な学習の充実を図る研究」

十勝教育研究所 ニノ宮 民子 主任所員

「進んで学習に取り組む力を育む研究～学びの価値を実感する協同的な学習の充実を通して～」

- ・子どもが学習を自分のこととして捉え、自分もっている力や身に付けた力を使って粘り強く取り組んだり、自分の考えを広げたり深めたり、学んだことや学び方を次の学習に生かしたりするというような、進んで学習に取り組む力を育むことが必要であると考えている。
- ・そのために「学びを意識付けるための指導」「学びを高め合うための指導」について研究を行っている。

（参加者の声）

- ・協同的な学習というテーマに基づいて授業づくりが発信されているとともに、ダイジェスト版のレイアウト、内容に工夫が見られ、情報発信の仕方が参考になった。
- ・十勝教育研究所の発表を軸にして、各地区の状況について交流することができた。



第2部会

【研究発表1】

テーマC「新たな教育課題（ICTを活用した授業づくり等）の解決を図る研究」

岩見沢市立教育研究所 渡 邊 強 所長

「ICT（遠隔学習）を活用した教育の充実を図る研究所の取組～双方向、ミーティングシステムによる交流学習の充実を目指して～」

- ・岩見沢市の情報通信ネットワーク環境を生かした教育の充実を図ることを目的に、学校教育におけるマルチメディアを活用した遠隔学習を推進している。
- ・また、ミーティングシステム（V-cube）を活用した各学校の自主的な授業づくりを支援し、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を重視した言語活動を大切にするとともに、ICT機器を活用した教育の研究を行っている。

（参加者の声）

- ・ICT機器の活用について、行政との連携の仕方が参考になった。
- ・ICT機器のメリット、デメリットを知り、協議を通して、各地の様子を交流できた。



【研究発表2】

テーマD「社会に開かれた教育課程の実現のため、地域に応じた教材開発や授業改善を図る研究」

根室教育研究所 水 口 拓 真 所員

「地域素材の効果的な教材化～あなたにもできる！北方領土を使った学習」

- ・根室管内では、「北方領土学習」について、各校の特色を生かした実践や本研究所の研究などが進められてきたが、「授業の作り方が分からない」「教材、映像資料などがそろっていない」などの課題が明確になった。
- ・そこで、北方領土学習について多種多様な教材や資料の収集や開発・整理を行い、データ化を図ることで「いつでも、どこでも、誰でも」授業実践が可能になるであろうという仮説の基に研究を行っている。



（参加者の声）

- ・地域素材を生かした学習は、CS導入の観点からも重要度が高いと考える。
- ・地域素材を研究内容に位置付けたハンドブックの作成は、参考になった。現場の先生方にも活用してもらえるよう普及したいと思う。



【部会の協議内容（一部）】

思考・判断・表現を繰り返し、学びを深める子どもの育成 ～各教科・各領域における言語活動を意識した授業づくり～ 網走地方教育研修センター

- 【成果】
- ・「自分の考え方と違う相手と交流する」という条件を付けることで、目的をもった対話ができている。
 - ・個人思考、小グループ、自由交流というステップの意図が共有できていた。
 - ・ノートの書き方が統一されていたため比較しやすく、発表後、違う考え等を書き加えることができていた。

【改善策等】

- ・子どもが説明する際、説明の仕方のモデルを事前に示すことが考えられる。
- ・全体での活動後は、グループごとの考えを共有する時間を設定することが考えられる。
- ・グループごとの考えが比較できるような板書及び資料等の工夫が考えられる。

- 【課題】
- ・教員の介入を最小限にし、子どもが自主的に発表・説明する必要がある。
 - ・グループ活動と全体での活動の目的を明確にする必要がある。
 - ・実物投影機で子どものノートを投影し、効果的であったが、それぞれの考え方を比較できるようにするための提示の工夫が必要である。

進んで学習に取り組む力を育む研究 ～学びの価値を実感する協同的な学習の充実を通して～ 十勝教育研究所

- 【成果】
- ・導入、展開、終末が明確な授業展開であり、課題とまともが正対した授業の組み立てとなっている。
 - ・学習形態を工夫しているため、子どもの意欲向上が図られている。
 - ・ワークショップ型の学習形態を積極的に取り入れているため、子どもの自主性が図られている。

【改善策等】

- ・個人思考、話し合い、まとも、振り返りという学習の流れを子どもに身に付けさせることが考えられる。
- ・学校全体で、学級経営の重要性を再確認することが考えられる。
- ・協同学習を深めるために、グループ学習の評価の観点等を学校全体で共有することが考えられる。

- 【課題】
- ・話し合う時間、まとめる時間、振り返る時間を十分に確保する必要がある。
 - ・活発な意見交流等のために、日頃から学級の雰囲気づくりを心掛ける必要がある。
 - ・グループ学習は協同学習を深めるための手段であることを教員全体で共有する必要がある。

ICT（遠隔学習）を活用した教育の充実を図る研究所の取組 ～双方向、ミーティングシステムによる交流学習の充実を目指して～ 岩見沢市立教育研究所

- 【成果】
- ・日程調整を容易にし、移動時間などを短縮できる。
 - ・町外、国外等、様々な人々との交流によつて、子どもたちが主体的に学ぶことができている。
 - ・北海道の広域性を解決する手立てとして遠隔地の学校でも、双方向の交流ができる。

【改善策等】

- ・遠隔システムごととの違いなどを明確にした内容や普及のためのマニュアル等の作成が考えられる。
- ・担当者を中心とした組織として対応するための仕組みを構築することが考えられる。
- ・行政と連携したコスト面への対応と、トラブルへの対策例の作成が考えられる。

- 【課題】
- ・V-cube と Skype の違いを明確にして導入を検討する必要がある。
 - ・準備・打合せ等、実施に係る担当者の負担を考慮する必要がある。
 - ・機器を導入するコスト面の対応や機器のトラブルに対応できる組織体制づくりが必要である。

地域素材の効果的な教材化 ～あなたにもできる！北方領土を使った学習～ 根室教育研究所

- 【成果】
- ・地域の特色を生かし、学校現場のニーズに応じた教材となっている。
 - ・研究紀要が教材として、すぐに授業で活用できるよう、工夫されている。
 - ・子どもの興味・関心を高める工夫が多く見られ効果的である。

【課題】

- ・全道に広く周知するため、情報発信の方法を工夫する必要がある。
- ・見通しをもって取組を進めるための年間指導計画など、具体的に活用するための実践例を示す必要がある。
- ・著作権の確認や、法的根拠などを明確に示す必要がある。

- 【改善策等】
- ・紀要の内容を踏まえたコンテンツ等をホームページに掲載することなどが考えられる。
 - ・多くの学校に参考にしていただくため、年間指導計画の例を作成することなどが考えられる。
 - ・全道で広く活用していただくため、著作権等の再確認や各学校が共通認識に基づいたためのリーフレット（1枚のもの）などを作成することが考えられる。

協議内容等につきましては、第16次共同研究の2年次の参考とさせていただきます。ありがとうございます。